

令和
7
年度

いよばのちまり 2



みなさん、
いっしょに ペンきょう
しましょうね。



ことばのきまり
イメージキャラクター
ことちゃん

カット 幸田

豊橋

新城

表紙 岡崎

浅井 優子先生

成田 綾香先生

嶋田 佑子先生

大須賀 貞治先生

河合 桂子先生

渡邊 満佑子先生

竹本 陽子先生

もくじ

一	かん字の書き方	1
二	かたかなで書くことば	6
三	気もちをあらわすときにつかうことば	13
四	丸(。)、点(・)、かぎ(「」)	14
五	主語とじゅつ語	16
六	なかになることば	25
七	数をあらわすことば	26
八	かん字の読み方とおくりがな	28
九	はんたいのいみのことば	30
十	声に出してみよう	31
十一	同じところのあるかん字、かたちのにているかん字	33
十二	組み合わせたことば	35



一 かん字の 書き方

(一)

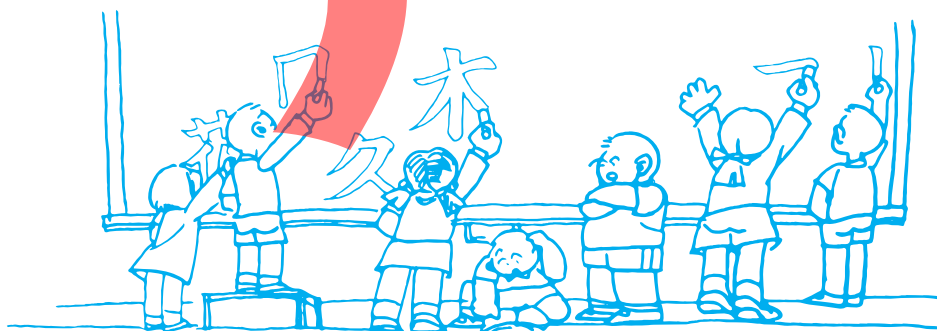
かん字の 画

一 上から じゅんに 書いて いくと、何と いう かん字に なりますか。

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
一	丨	丶	ノ	丨
丨	ㄥ	一	乙	一
ノ	丶	ㄣ	一	一
ㄨ	ㄥ	ノ	一	一
一	丨	一	一	一

↓

--	--	--	--	--



2 つぎの かん字は 何画で 書けるでしょう。 かん字で 書きましょう。

(1)

ノ
白
白
白

画

(2)

ノ
人
人
气
气
气

画

(3)

一
一
サ
サ
苜
苜
苜
草

画

(4)

ノ
人
人
人
年
年

画



一つの どうさで 書く かん字の 線や 点の ことを 画と いいます。
一つの かん字が、何回の どうさで 書けるか、数えた 数とその かん字の 画数と いいます。



3

つぎの
かん字の

画数^{かくすう}を

かん字で
書きましよう。

(1)

口

()

()

画^{かく}

(2)

子

()

()

画^{かく}

(3)

円

()

()

画^{かく}

(4)

紙

()

()

画^{かく}

(5)

名

()

()

画^{かく}

(6)

町

()

()

画^{かく}

(7)

線

()

()

画^{かく}

(8)

読

()

()

画^{かく}

(9)

画

()

()

画^{かく}

(10)

風

()

()

画^{かく}

(11)

学

()

()

画^{かく}

(12)

数

()

()

画^{かく}

(13)

足

()

()

画^{かく}

(14)

声

()

()

画^{かく}

(15)

校

()

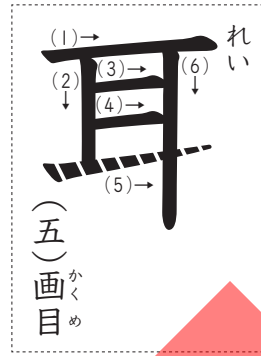
()

画^{かく}



(二) かん字の ひつじゅん

— つぎの かん字の 点線の ぶぶんは 何画目でしよう。 れいを見て 何画目か かん字で 書きましょう。



点 () 画目
王 () 画目

早 () 画目
中 () 画目

田 () 画目
金 () 画目

雨 () 画目
右 () 画目

下 () 画目
二 () 画目

人 () 画目
十 () 画目

水 () 画目
川 () 画目

かん字の 書き方には きまった じゅんじよが あります。この 書き方の じゅんじよを ひつじゅんと いいます。

- ① 上から 下へ 書いて いきます。 (れい) 三 下 早 年
- ② 左から 右へ 書いて いきます。 (れい) 川 竹 人



2 正しい ひつじゅんに ○を つけましょう。

(7)	(5)	(3)	(1)
入	正	女	車
() ()	() ()	() ()	() ()
ノ	一	一	一
入	下	女	車
入	正	女	車

(8)	(6)	(4)	(2)
生	火	五	左
() ()	() ()	() ()	() ()
ノ	ノ	一	一
ノ	人	五	ナ
生	火	五	左
生	火	五	左



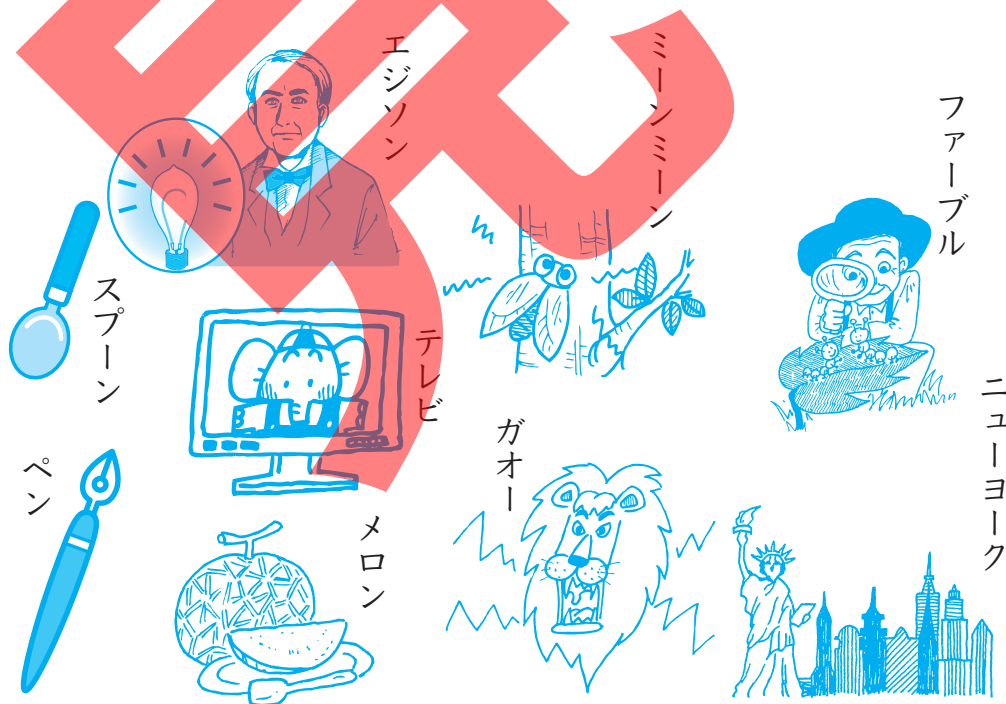
二 かたかなで 書く ことば

(一) つぎの かたかなの ことばを 下から えらんで 書きましょう。

1 外国の 地名

2 外国の 人の 名前

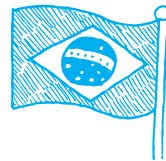
3 外国から 来た ものの ことば



4 いきものの 鳴き声なごえ

ホーホケキョ

ブラジル



コケコッコー



ドンドン

チューチュー



チリン
チリン



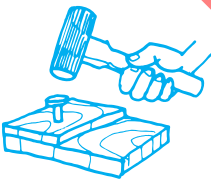
ワンワン



ケーキ



トントン



トライアングル



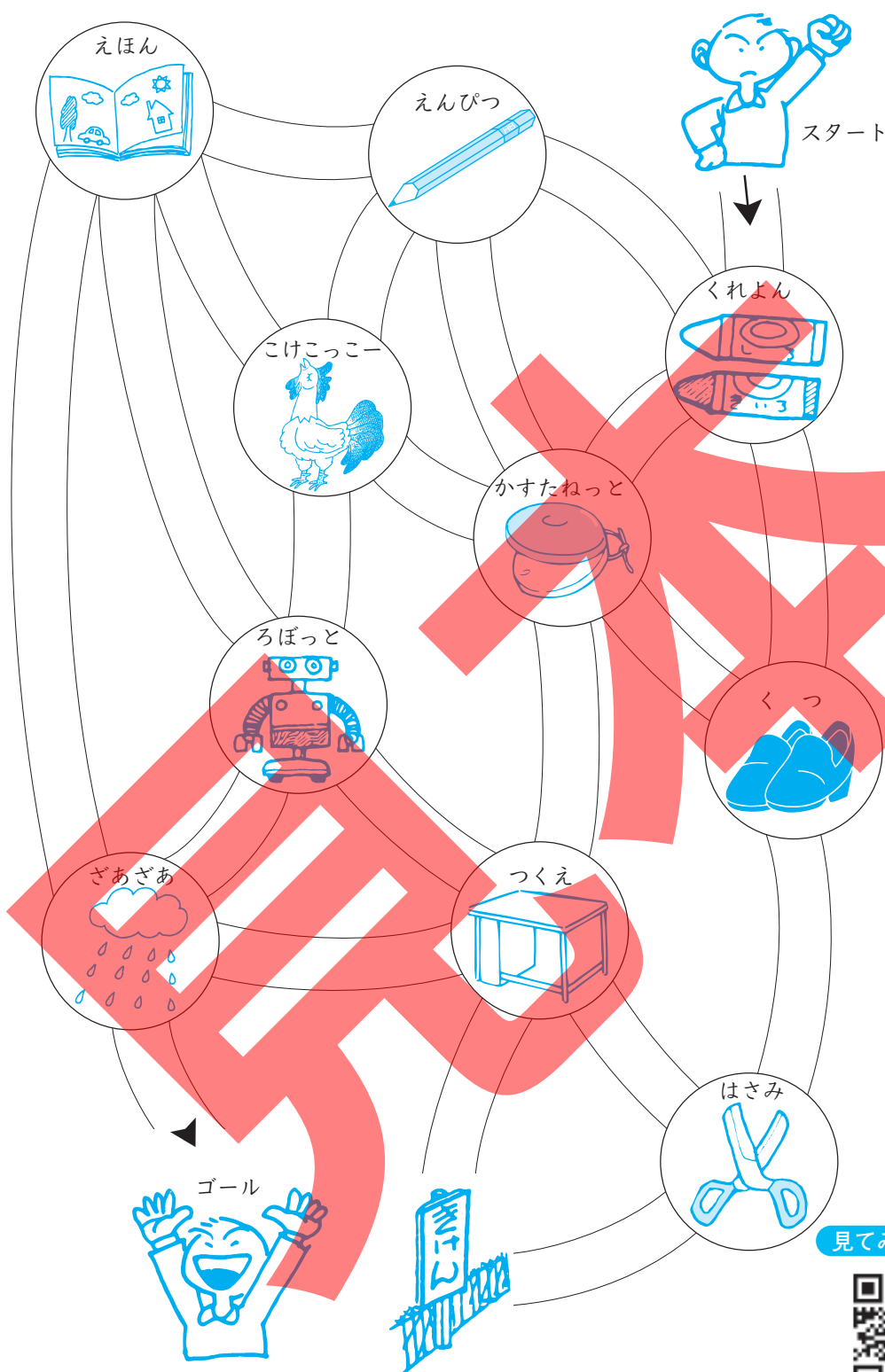
5 音を あらわす ことば

かたかなで 書く ことばには、つぎの ような ものが あります。

- ・ 外国がいこくの 地名ちめいや 人の 名前なまえ
- ・ 外国がいこくから 来たき ものの ことば
- ・ 鳴き声なごえや 音を あらわす ことば



(二) かたかなで 書く ことばの ところを 通^{とお}つて、ゴールまで いきましょう。



見てみよう



NHK for School
ことばドリル
「カタカナでかくことば」



音を あらわす ことばは、**かたかなで** 書きます。
 ようすを あらわす ことばは、**ひらがなで** 書きます。

見てみよう 



NHK for School
ことばドリル

「ぎゅっきゅつ と ぎゅっきゅつ」

(三)

の ことばの 書き方が 正しい 方に ○を つけましょう。

5
() ()

星^{ほし}が キラキラ かがやいて いる。

星^{ほし}が きらきら かがやいて いる。

3
() ()

子どもが ニコニコ わらった。

子どもが にこにこ わらった。

1
() ()

石ころが 池^{いけ}に ボチャンと おちた。

石ころが 池^{いけ}に ぼちゃんとおちた。

6
() ()

チャイムが ピンポンと 鳴る。

チャイムが ぴんぽんと 鳴る。

4
() ()

くつが ぴかぴか 光る。

くつが ピカピカ 光る。

2
() ()

電子レンジが ちいんと 鳴った。

電子レンジが チーンと 鳴った。



かたかなで のばす 音を 書く ときには、「ー」をつかいます。

4

あしたの
体たいいくは、

() ()

プール

プウル

で
およぎます。

3

() ()

クリーム

クリーム

が

たつぷりのった

() ()

ケーキ

ケエキ

は、
おいしい。

2

ぼくは、

() ()

ノート

ノート

に、

() ()

ボールペン

ボールペン

で

文字もじを

書かきました。

1

わたしは、

() ()

ジュース

ジュウス

を

() ()

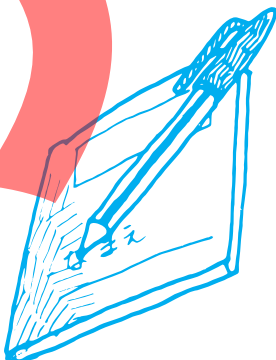
ストロウ

ストロー

で

のみました。

(四) のばして 読む ことばが、正しく 書いて ある 方ほうに ○を つけましょう。



(五)

つぎの 絵は 何でしよう。
の 中の かたかなを つかって 書きましょう。

ファ

ティ

フェ

フォ

1



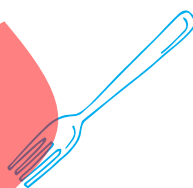
2



3



4



5



かたかなでは、ア、イ、ウ、エ、オを 小さく 書きあらわす ことができます。



(六) つぎの 文の 中から かたかなで 書く ことばを 見つけて — を 引き、
□ の 中 に

かたかなで 書きましょう。

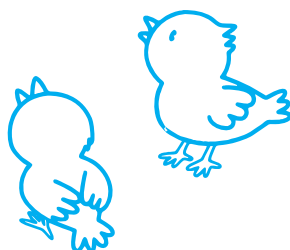
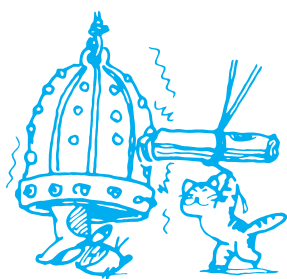
1 花^かだんには、ちゅうりつぷの 花^{はな}が、きれいに さいて いました。

2 ひよこが ぴよぴよと 鳴^ないて いました。

3 あめりかから とむさんが やってきました。

4 お寺^{てら}の かねが ごおんと 鳴^なりました。

Four vertical rectangular boxes for writing practice, with a large red watermark '見' (See) overlaid.



三 気もちを あらわす ときに つかう ことば

(一) つぎの () に あてはまる ことばを から 一つ えらんで 書きましよう。

1 遠足では どこへ 行くのか () から

2 友だちが お休みして いて ()

3 へびが 出て きて ()

4 さか上がりが できなくて ()

5 ねがいが かなって ()

くやしい
わくわくする
さびしい
びつくりする
うれしい



くやしい、わくわくする、さびしい、びつくりする、うれしい のような ことばは、気もちを あらわして います。

(二) 気もちを あらわす ことばを さがして 書きましよう。





四 丸（。）、点（、）、かぎ（「」）

(一) 友だちが書いたかんそう文です。
 ましょう。
 の中に丸（。）か点（、）をつけて、読みやすくし

よかったね、スイミー

わたしは

図書室で「スイミー」をかりました

ス

かとうひろみ

イミーはきょうだいがいなくなってかわいそうだと思

ましたまぐろにあったときスイミーも食べられて

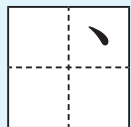
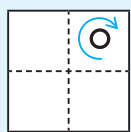
しまうかと思っときどきしましたでもにげるこ

とができてよかったと思いました

文を書くときは、丸（。）や点（、）をつかいます。

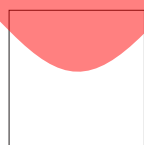
丸（。）は、文のおわりにつけます。

点（、）は、文の中のきれ目につけます。

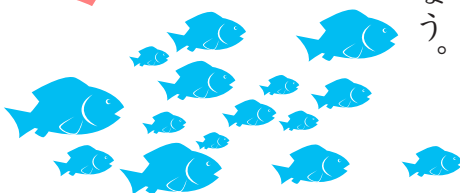


(二) かとうさんのかんそう文に

は、いくつ文がありますか。
 数えてみましょう。



つ





(二) つぎの 二つの 作文に 「 (かぎ) を つけましょう。

おばさんの 赤ちゃん

ぼくと 兄ちゃんが、

本を 読んで いたら、

て きました。

おばさんの 赤ちゃんが

生まれたぞ。

と言ったので、ぼくは、

男、女、どっち。

と 聞きました。お父さんが、

女の子だよ。いっしょに 見に行るか。

と言って くれました。

ホットケーキづくり

きのう、ぼくは、 やまもと たろう

り という 本を 読んで、 ホットケーキ

をつくりました。

フライパンに きじを 入れると、 お母

さんが、

ぷつぷつと あわが 出てきたら、 ひっ

くりかえしてね。

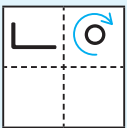
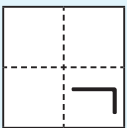
と言いました。 だから、ぼくは、 フラ

イパンを じっと 見ていました。 しばらく

くすると、 きじが 黄色っぽく なって

きました。

「 (かぎ) は、文しようの 中で 会話や、お話の 名前、本の だい名などを 書くときに つけます。 会話は、 行を かえて 書きます。 「」の中の 文にも。(丸)を つけます。 会話の おわりの。(丸と かぎ)は、同じ ますの 中に 書きます。



五 主語と じゅつ語

(一) ものの 名前や ことがらの 名前を あらわす ことは

ー みの まわりに ある ものの 名前や、ことがらの 名前を あつめましょう。

(1) べん強に つかう ものの 名前

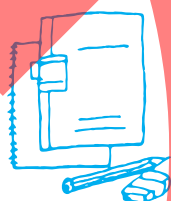
(2) 教室に ある ものの 名前

(3) うんどうに つかう ものの 名前

(4) きせつの 名前

--	--

--	--



--	--

--	--



ものの 名前や、ことがらの 名前を あらわす ことは「名前ことは」といいます。





「どうする」ということをあらわすことばを「うき」とば「と」います。

(5)



(3)



(1)



「絵の ような 「どうする」ということを
書きましよう。」

(二) 「どうする」ということをあらわすことば

「どうする」ということをあらわすことばを、

の 中 に

(6)



(4)



(2)





いいいます。

「だれが」

「だれは」や「何が」

「何は」に

あたる

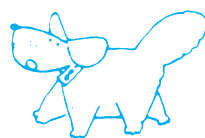
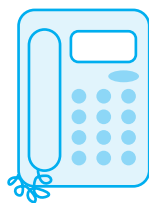
ことばを、

主語

(文の

あたま)

と



(三)



に

あてはまる

ことばを、

の中から

えらんで

書きましよう。

(何が)

(どうする)

とりが

電話が

ねこが

雨が

犬が

花が

鳴く

鳴る

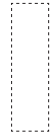
ほえる

ふる

とぶ

さく



(四) 絵^えを 見^みて  に あてはまる ことばを 考^{かん}え、  の 中から えらんで 書^かきましょう。

(だれが)

(どう する)

兄^{にい}さんが

兄^{にい}さんが



兄^{にい}さんが

兄^{にい}さんが



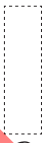
(五)

(何^{なに} は)

(どんなだ)



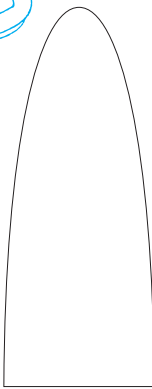
に あてはまる ことばを、



の 中から えらんで 書^かきましょう。

とうふは

お母^{かあ}さんは



白^{しろ}い
きれいだ

走^{はし}る なげる 食^たべる わらう





「どうする」「どんなだ」や「ある」「いる」「何だ」にあたることばを、じゅつ語（文のからだ）
といいます。

くだものだ

二年生だ

おいしい

子どもだ

（どんなだ）

わたしは

ぶどうは

（だれは）

（何は）

（何だ）

（七）

に

あてはまる

ことばを、

の中から

えらんで

書きましよう。

（六）

正しい方に

○を

つけましよう。

（何が）

本が

（ ）
いる。

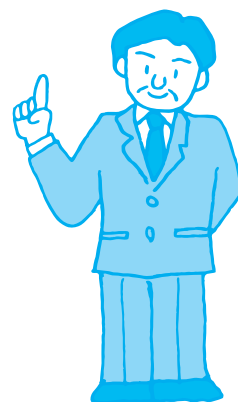
（ ）
ある。

（だれが）

先生が

（ ）
いる。

（ ）
ある。



(ハ) 絵を見て文を作りましょう。

(何が)

(どうする)

魚が

(だれが)

(どうする)

2

もぐる。

(何は)

(どんなだ)

3
トマトは

(だれは)

(どんなだ)

4

強い。



文は、四つのなかまに分けることができます。

① 何をして、いるかをあらわす文

「何が(は) どうする。」

「だれが(は) どうする。」

・花がさく。

・お父さんが走る。

② 色や形や、ようすなどをあらわす文

「何が(は) どんなだ。」

「だれが(は) どんなだ。」

・ひこうきは、はやい。

・赤ちゃんは、かわいい。



8

お母^{かあ}さんは

(だれは)

(何^{なん}だ)



7

(何^{なに}は)

(何^{なん}だ)

どうぶつだ。



6

(だれが)

(いる)

いる。

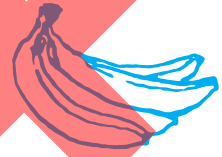


5

(何^{なに}が)

(ある)

ある。



③

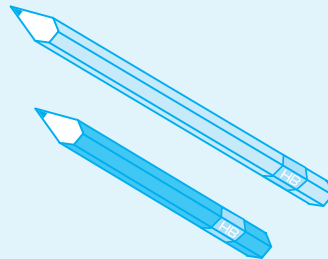
ものや 人が そこに ある (いる)
ことを あらわす 文

「何^{なに}が (は) ある。」

「だれが (は) いる。」

・ えんぴつが ある。

・ 友^{とも}だちが いる。



④

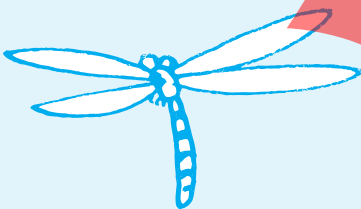
何^{なん}の なかまかを あらわす 文

「何^{なに}が (は) 何^{なん}だ。」

「だれが (は) 何^{なん}だ。」

・ とんぼは こんちゅうだ。

・ お父^{とう}さんは 先生だ。





(九)

(れい) たいようが まぶしい。

文を 読んでみると、まぶしいのは たいようだと 分かります。

このように、じゅつ語の 何が(だれが)に あたるところが 主語になります。

線は、文の じゅつ語です。主語を 見つけて、—— 線を 引きましょう。

1 兄は 元気だ。

2 犬が 大声で ほえる。

3 母は いつも いそがしい。

4 遠くで 赤ちゃんが なく。

5 もうすぐ 日が しずむ。

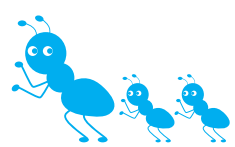
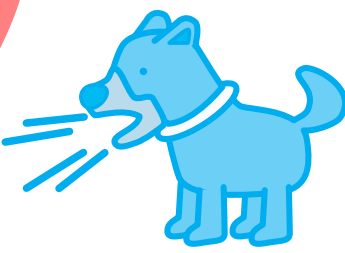
6 今朝、 花が 一りん さいた。

7 すぐそこに ありが たくさん いる。

8 ある日、 とつぜん 雨が はげしく ふった。

9 妹が へやで 歌を 歌う。

10 きのお、 わたしは お父さんと いっしょに あそんだ。



(十) つぎの 文の じゅつ語に 線をひきましょう。そして、主語に 線をひきましょう。

1 わたしは わらった。

2 花が さく。

3 クーラーが とつぜん こわれる。

4 先生は しょくいん室に いる。

5 えきで 電車が とまる。

6 いつも 姉は やさしい。

7 今日の 星空は とても うつくしい。

8 もうすぐ しんごうが 青に かわる。

9 きよ年の 四月に、 わたしは 小学校に 入学した。

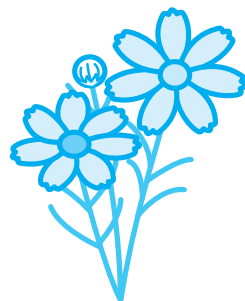
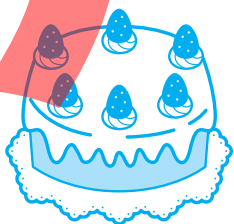
10 夕日が 山に ゆっくり しずむ。

11 今日、 お母さんが 家で ケーキを 作った。

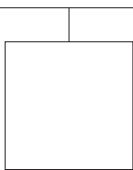
やってみよう



ちびむすドリル
「主語と述語」



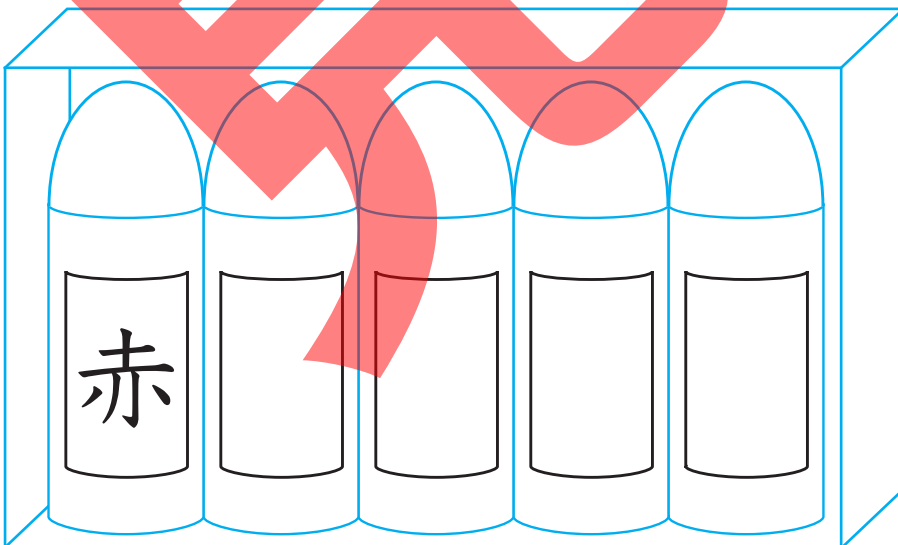
〈家ぞく〉



(自分) じぶん



〈いろのなかま〉



(一)

なかまになることばを

六 なかまになることば

の 中に 書きましよう。



七 数^{かず}を あらわす ことば

(一)

に あてはまる ことばを、

の 中から えらんで 書^かきましょう。

1 ぼくは、えんぴつを 十^{じゅう}

買^かいました。

2 ふでばこに、けしゴムが 三

入^いって いました。

3 おり紙^{がみ}が 五

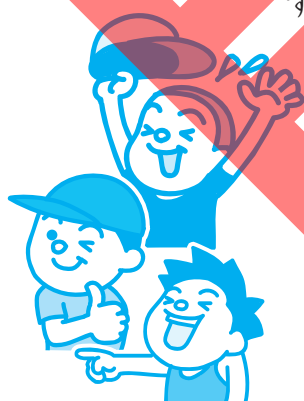
足^たりません。

4 ちゅう車場^{じやう}に、車が 七

とまっています。

5 男の子が 三

います。



足 ^{そく}	本	まい	さつ	さい
人	台 ^{だい}	こ	けん	ひき





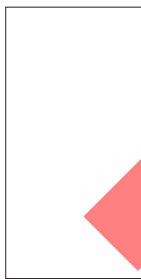
ものを 数える かぞ ときには、数の かず あとに、ものによって き まった こと ばを つけ ます。

10 本を 四



かりました。

9 げんかん、くつが 二



あります。

8 たん生日 じうび が くと、八



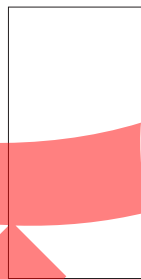
になります。

7 山おくに、家 いえ が 一



たって いました。

6 ハムスターを 二



そだてて います。

ちよつと むずかしい かぞ 数えかた

・ふく

...



・鳥 とり やうさぎ

...



・牛 うし などの大きなどうぶつ

...



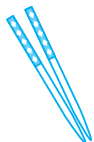
・はさみやとうふ

...



・はし

...



八 かん字の読み方とおくりがな

(一) つぎの文の — の かん字に 読みがなをつけましょう。

2	1
人が 少ない。 少し あそぶ。	だんを 上げる。 さかを 上る。
3	
さか道を 下る。 へやの おんどうを 下げる。	ねつが 下がる。 たなから にもつを 下ろす。 はしごを 下りる。

かん字には いくつもの 読み方があります。 「下がる」の 「がる」、 「下ろす」の 「ろす」などを おくりがなと いいます。 おくりがなは かん字の 読み方や いみを はっきり させます。



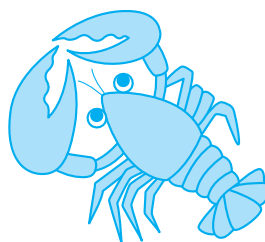
(二) かん字の 読みがなに 気を つけて、おくりがなを つけましょう。

1
 ぼくは 教室^{きょうしつ}から 外^{そと}へ 出^で。
 ぼくは 教室^{きょうしつ}から つくえを 出^で。
 。

2
 川で つかまえた ざりがにが 生^{なま}。
 草が 生^{なま}。
 ざりがにの 赤ちゃんが 生^{なま}。
 。

3
 お父^{とう}さんは にもつを トランクに 入^{いれ}。
 お父^{とう}さんは にもつを もって へやに 入^{いれ}。
 。

4
 いえの 明^あ。
 へやの 中は 明^{あか}。
 。



九 はんたいの いみの ことば

(一)

はんたいの いみを あらわす ことばを
から えらんで 書きましよう。

1 大きい

2 右

3 おもい

4 広い

5 みじかい

せまい 小さい
かるい 左
ながい 長い

(二)

つぎの — の ことばと はんたいの いみを
あらわす ことばを 書きましよう。

この 本は あつい。

この へやは あつい。

おちやが あつい。

山が 高い。

ねだんが 高い。

見てみよう



NHK for School
ことばドリル
「はんたいのことば」

十^{こえ}声に出して みよう

(一) つぎのことばを 手を たたきながら 言^いって みましょう。

だいこん
すずめ

「だいこん」は 四^{かい}回、「すずめ」は 三^{かい}回 手を たたきます。

― つぎのことばは、何^{なんかい}回 手を たたくか、声^{こえ}に出して 言^いって みましょう。

また その回^{かいすう}数を () に かん字で 書^かきましょう。

(1) すしや

() 回^{かい}



(2) ぬいぐるみ

() 回^{かい}



(3) いしや

() 回^{かい}



(4) ジャンプ

() 回^{かい}



(5) そうめん

() 回^{かい}



(6) かっぱ

() 回^{かい}



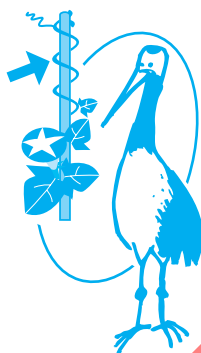
(二) 声^{こゑ}に 出して、 ちがいを たしかめましょう。

「ほうきで はく」 「くつを はく」

二つの「はく」は 字は 同じですが、
 同じ ことばでは ありません。 音の高さ^{たか}によつて いみの
 ちがう ことばに なります。

― つぎの ことばを 声^{こゑ}に 出して、 音の 高さ^{たか}を たしかめましょう。

(1) つる



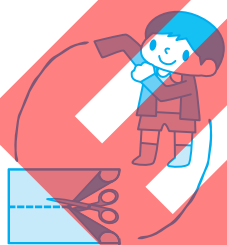
(3) あめ



(2) いっぱい



(4) きる



音の高さ^{たか}に 気をつけて読むことができた

よくできた



できた



もうすこし





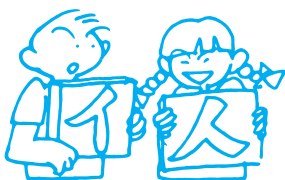
同じ おな ところの ある かん字は、にたい おな いみをもっている ことがあります。

(一)

同じ おな ところの ある かん字を あつめましょう。

十一 同じ おな ところの ある かん字、かたちの にている かん字

7	5	3	1
イ	之	木	言
8	6	4	2
イ	之	木	文



(二)

形^{かたち}が

よく

にた

かん字^{かんじ}を

から

えらんで

正しく

書^かきましよう。

6

上

1

字

7

土

2

車

8

足

3

休

4

里

5

池

地 走
体 黒
学 東
工 止





十二 組み合わせた ことば

①の 文と ②の 文の — の ことばを くらべて みましょう。

① 自分の じぶん にもつを もって 帰る。 かえ

② 自分の じぶん にもつを もち 帰る。 かえ

②は、①と同じ おな ことを 一つ の ことばで 言いあらわして います。

もつ + 帰る かえ ↓ もち 帰る かえ

「もち帰る」は 二つの ことばを 組み合わせた ことばです。



(一) 二つの ことばを 組み合わせた 一つの ことばを つくりましよう。

ひろ う

+

あつめる



切 き る

+

た お す



立 つ

+

上 が る



(二) ——— の ことばを、組み合わせて 一つの ことばを つくりましょう。

1 石を もって 上げる。

2 台の上から、とんで 下りる。

3 うんどう場を 走って 回る。

4 新聞を つんで かさねる。

5 雪が ふって つもる。

(三) に あてはまる ことばを

の 中から えらんで 書きましょう。

1 小川を

2 はり金を

3 どろを

4 おかしを

あらいながす

とびこえる

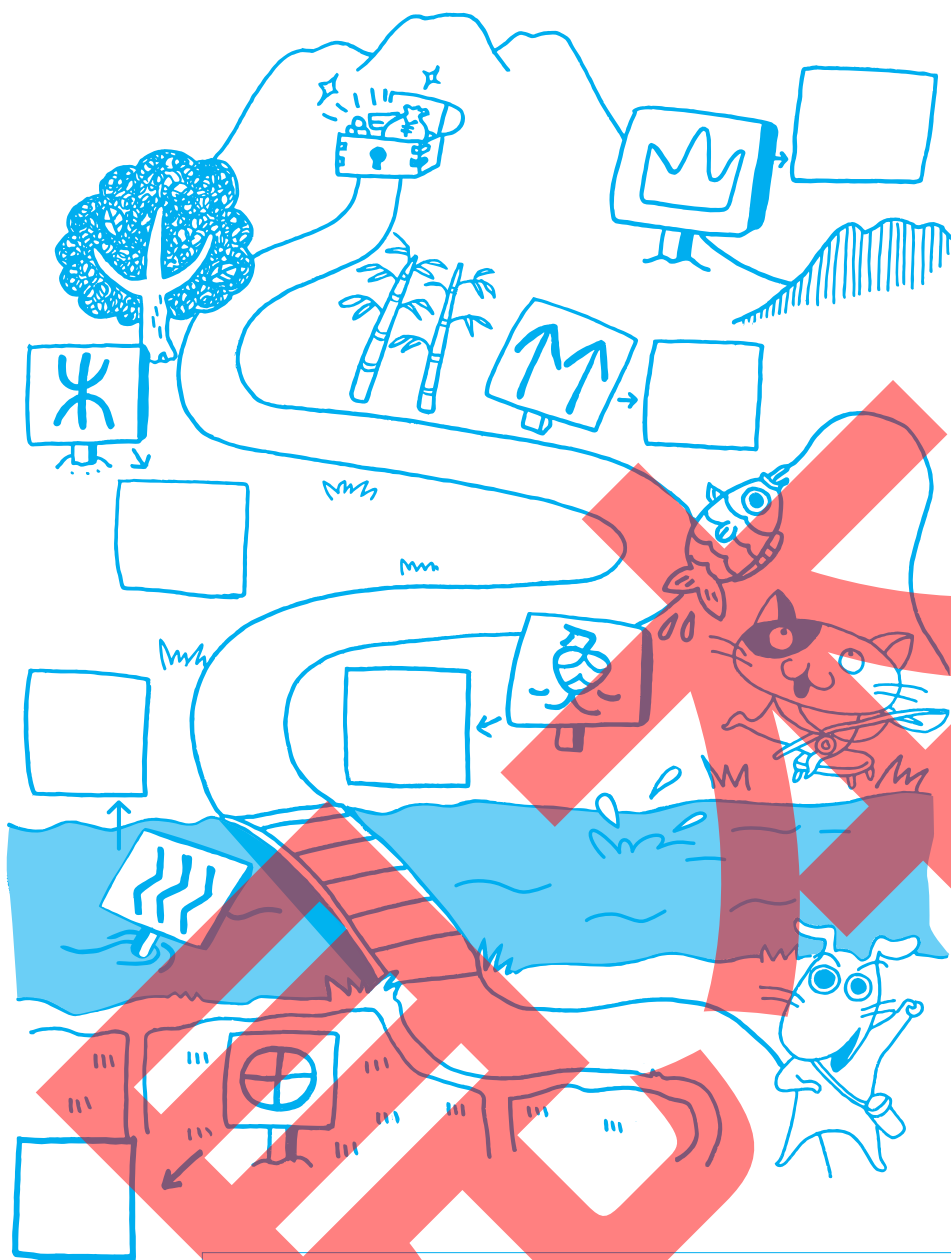
おりまげる

食べおわる



かん字の山のぼり

絵文字を かん字に なおして、山の ちよう上まで 行ってみよう。



令和7年度版 ことばのきまり 2年

編集 「ことばのきまり」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819

印刷 株式会社 岡田印刷

※無断で複写・複製することを禁じます。

※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。





名前
年
組

見本